
彼の笑顔は素敵なんだ

アル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

彼の笑顔は素敵なんだ

【Nコード】

N6649B

【作者名】

アル

【あらすじ】

彼を待つ私。彼に告げる言葉は一つだけ。「私、貴方の事が好きなの!」

風が止んだ。

彼が遠くからやってくる。

私を見つけて走ってきた。

高鳴る私の鼓動。

心拍数上昇中。

彼が私の前に来た。

いつもと変わらない笑顔。

「話して何？」

私はこの笑顔が好きなんだ。

「うんとね」

少し声が高くなった。

彼は「うん」と頷いた。

「えっと・・・ね」

彼はもう一度「うん」と頷いた。

「私、貴方の事が好きなの！」

私の心拍数は限界に達した。

「俺も好きだよ」

いつもの笑顔で、即答だった。

私の心拍数は限界を超えた。

「好きだなあ」

噛み締めるようにもう一度言った。

「ほ、ホント・・・？」

私の胸は嬉しさで押しつぶされそうだ。

「うん！」

彼は力強く答えた。

そして

「ねえ、俺のどこが好き？」

こう続けた。

「んと・・・面白いところとか・・・大きい目とか・・・笑顔かな」

私は彼をちらちらと見ながら答えた。

「そっかあ。俺はね、行動力があるところとか……。そうだ！笑った時にエクボが出来るところが好きだな！ほら！」

そう言つて、自分の右の頬を指した。

私は少し混乱した。

「あとは……。ああーいっぱいあつて分からないや」

彼の変わらない笑顔。

「……。私、エクボ出ないよ？」

私はエクボどころか行動力もないつと自己分析。

「へー、俺あるよ。ほら」

そう言つて右の頬を指した。

「ちよ、ちよつと待つて……」

私も彼も大きな勘違いをしているのだろうか。

「どうしたの？」

きょんとした彼。

「あのー・・・誰の事が好きなのかな？」

核心に迫る私の言葉。

「俺だよ」

私の好きな笑顔になる。

「そ、そう・・・」

頭痛がしてきた。

「うん！」

変わらない笑顔。

「ねえ、一発殴っていいかな？」

私も自然と笑顔になった。

「ええ！なんつ・・・」

バチン！

「いてえー！」

こうして私の春は終わりを迎えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6649b/>

彼の笑顔は素敵なんだ

2010年12月14日22時24分発行